科目名			担当教員	
社会福祉原論（職業指導を含む）			元村　智明	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CA3104	4	2	RorSR (講義)	2年以上
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

科目の概要

■科目の内容

社会福祉にかかわる全般的な基礎知識の学修と、社会福祉観の変遷についての理解を目的とします。“社会福祉”という言葉は広く使われるため、その実態の学問的把握は曖昧になりやすく、ともすると主観的な幸福論や通俗的な人生論に終始しやすいと思われます。しかし、多種多様な社会福祉事象および具体的な社会福祉実践の本質は、まぎれもなく他者の人生へのかかわりであり、理念的には人類史上の文化的創造の営為の一つとも解せます。したがって、「社会福祉原論」では社会福祉に関する専門用語・知識の確認に留まらず、常に「社会福祉とは何か」「社会福祉をいかに捉えていくのか」等を思考しながら学修することを望みます。大切なことは、自らの社会福祉観の涵養（かんよう）にあるといえます。

■到達目標

1）社会福祉の全般的な基礎知識（社会福祉士・精神保健福祉士国家試験科目『現代社会と福祉』の合格水準）を解説できる。
2）社会福祉の歴史の概要を説明することができる。
3）社会福祉の思想に関して理解し、説明することができる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 40%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］4 社会福祉の原理と政策　第 2 版』中央法規出版、2025 年

（最近の教科書変更時期）2026 年 4 月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。旧版を所持している場合も受講に支障がないよう資料を配付します。

【参考図書】

厚生労働統計協会編『厚生の指標・臨時増刊国民の福祉と介護の動向』厚生労働統計協会、各年版。なお、詳細な参考図書は、スクーリング時に適宜紹介します。

スクーリング

▶オンデマンドのみ

■スクーリングで学んでほしいこと

自らの社会福祉観を問い直しながら、社会福祉のあるべき姿について他人事ではなく自分事として考えてみたいと思います。具体的には以下の５点について検討することによります。

1）社会福祉とは何か（基本的性格、存立の根拠、そこに包摂される理念や原理、原則などを含む）

2）社会福祉が歴史的社会的にどのようにして形成され、展開してきたか

3）福祉国家および福祉社会の方向性と福祉政策の展開について、考察する

4）社会福祉が理論的かつ思想的にいかに議論され、展開してきたか

5）社会福祉の原理について、考察する

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	福祉政策の概念・理念と社会福祉学	社会福祉学を学ぶ基本的視点を政策から学ぶ意義や必要性
2	社会福祉の歴史視点と時期区分	＜社会福祉＞を認識する視点と方法としての段階・時期区分
3	日本の社会福祉の歴史的展開	福祉理念と福祉実践
4	欧米の社会福祉の歴史的展開	欧米の近代社会の成立と市民社会の形成における福祉実践
5	社会福祉の現代的展開	現代社会の福祉理念と社会保障制度とソーシャルワーク
6	福祉政策の国際比較	福祉国家を国際比較するための視点と方法
7	社会福祉学の構造と特徴	社会福祉学を学ぶ基本的視点、歴史性から学ぶ意義と必要性
8	社会福祉の原理・思想・哲学	基本的人間理解と他者支援の観点からの利他的行為。人間の尊厳と社会正義、平和主義にもとづく社会福祉の思想・哲学
9	社会福祉理論の基本的な考え方	戦後社会福祉の理論の成立に係わる基本的考え方と枠組み
10	社会福祉の理論①	社会福祉の必要性を論じた政策論と技術論
11	社会福祉の理論②	社会福祉の必要性を論じた固有論と統合論
12	社会福祉の理論③	社会福祉の必要性を論じた運動論と経営論
13	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング評価基準

とくに＜社会福祉＞の成立についての理解を問います（教科書・配付資料、自筆ノートの持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：10～20 時間）

「社会福祉はなぜ必要なのか」「福祉と社会福祉は異なるのか」について考えながら、受講されてください。

社会福祉の政策の理解については、教科書の「序章　社会福祉の原理」「第１章　社会福祉の歴史」「第４章　福祉政策の基本的な視点」「第７章　福祉政策の動向と課題」「第 10 章　福祉政策の国際比較」を一読して受講されてください。

さらに社会福祉の原理の理解については、「第２章　社会福祉の思想・哲学・理論」「第５章　福祉政策におけるニーズと資源」「終章これからの社会福祉」を一読して受講されてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：40～50 時間）

講義内容をさらに発展させて、日々の時事問題に関心をもち、それが社会福祉の対象範囲となり得るか、否かについて考え続けながら他の科目を受講されてください。また、教科書の該当頁を再読されてください。

レポート学習

■在宅学習 30 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	現代社会と社会問題 (第３章第１節)	現代社会における社会問題を考える キーワード：非正規雇用問題、核家族、社会的孤立、社会的排除、リーマンショック、ヴァルネラビリティ、リスク	社会が抱える問題の全体像を理解し、個人問題ではなく個別・具体的な社会問題として理解を行い、社会問題の解決策について考えてみましょう。
2	福祉政策とは何か (第４章第１節)	福祉政策の基本的な視点 キーワード：狭義の福祉、広義の福祉、最高善、選好	＜狭義の福祉＞と＜広義の福祉＞を理解したうえで、＜幸福＞＜徳＞＜選好＞＜功績＞等の価値を含む概念との関連性で社会福祉とニーズ（必要）の概念について考えてみましょう。
3	福祉政策の概念・理念 (第４章第２節)	福祉政策における概念と理念 キーワード：パターナリズム、自由、平等、自立、フェミニズム、人権	＜自由＞や＜平等＞の概念を踏まえたうえで、＜自立＞と＜依存＞の関係をおさえ、自由主義思想とその変質・変容を理解し、新自由主義が福祉政策に与える影響を理解しましょう。
4	社会福祉の歴史① (第１章第１節)	社会福祉の歴史を学ぶ視点 キーワード：社会関係、段階論、時期区分論	＜社会福祉＞の成立を社会福祉の歴史を学ぶことを通して考えてみます。 その際に、＜個人＞と＜社会＞のありようを歴史的視点から学びながら、社会福祉を段階的に理解しましょう。
5	社会福祉の歴史② (第１章第２節)	欧米における社会福祉のあゆみ キーワード：救貧税、慈善組織協会、友愛訪問、貧困調査、ナショナル･ミニマム、５人の巨人、貧困の再発見、公民権運動、新自由主義	資本主義の社会体制の先駆けとなったイギリス社会と急激に発展したアメリカ社会において、社会問題の創出とその対応としての政策として、社会福祉の歴史的展開について把握しましょう。
6	社会福祉の歴史③ (第１章第３節)	日本における社会福祉のあゆみ キーワード：四箇院、戸令、慈善事業、感化救済事業、社会事業、厚生事業	日本の社会福祉のあゆみを段階的に理解し、社会福祉の歴史的展開のなかに、その連続性と非連続性の双方の側面を考えてみましょう。
7	福祉政策の構成要素と過程① (第６章第１節)	福祉政策の構成要素 キーワード：政策、第三の道、レジリエンス、逆機能、資源配分、準市場	福祉政策の構成要素について、政策分野と各分野の目的から理解したうえで、福祉政策の資源配分の諸形態を学び、福祉サービスの提供方式の多元化と各々役割について理解しましょう。

8	福祉政策の構成要素と過程② (第６章第２節)	福祉政策の諸過程と方法・評価 キーワード：住民参加、PDCA サイクル	福祉政策の全体像とその諸過程を踏まえ、福祉政策の方法・手段・評価をおさえたうえで、さらに福祉政策と福祉計画、福祉行財政の関連性について把握しましょう。
9	福祉政策の動向と課題① (第７章第１節)	福祉政策と包括的支援の現状 キーワード：社会福祉基礎構造改革、措置（委託）制度、契約、社会福祉法、地域共生社会、多文化共生（社会）、持続可能な社会	福祉政策の起点である社会福祉基礎構造改革の基本的方向性への理解と社会福祉法の成立を踏まえ、近年の福祉政策の動向と社会の方向性についておさえましょう。
10	福祉政策の動向と課題② (第７章第２節)	福祉政策と包括的支援の課題 キーワード：SDGs、地方創生、インクルーシブな社会	＜地域共生社会＞の実現と地域づくりへの課題を踏まえ、福祉人材確保と多文化共生社会の課題、社会的課題解決の新たな方法を学びましょう。
11	福祉政策と関連政策① (第８章第１節・第２節)	福祉政策と保健医療政策・教育政策 キーワード：医療ソーシャルワーカー、子どもの貧困、スクールソーシャルワーカー、貧困の世代的再生産	人が人に係わる隣接領域の保健医療政策と教育政策の概要を踏まえて、それらが福祉政策といかに関連しているかについて考えながら、他業種・多職種が連携する必要性や必然性について考えてみましょう。
12	福祉政策と関連政策② (第８章第３節・第４節・第５節)	福祉政策と住宅政策・労働政策・災害政策 キーワード：ライフサポートアドバイザー、サービス付き高齢者向け住宅、第二のセーフティーネット、就労支援員、福祉避難所	人が生きていくうえで必要不可欠な住まいと労働、そして災害時の各政策概要を踏まえて、それらが福祉政策といかに関連しているかについて考えてみましょう。
13	福祉サービスの供給と利用の過程① (第９章第１節)	福祉サービスと福祉供給部門 キーワード：レッセフェール、パターナリズム、CSR（企業の社会的責任）	福祉サービスの供給が多元的な供給主体によって担われている点をふまえながら、その供給主体のそのものの特徴として長所や短所についておさえてみましょう。
14	福祉サービスの供給と利用の過程② (第９章第２節)	福祉サービスと福祉供給過程 キーワード：情報の非対称性、新自由主義	福祉サービスにおける供給過程の仕組みの全体像を把握しながら、福祉行財政の役割や市場の仕組みの導入がもたらす功罪について考えてみましょう。
15	福祉サービスの供給と利用の過程③ (第９章第３節)	福祉サービスと福祉利用過程 キーワード：社会権、資力調査、スティグマ、アウトリーチ	利用者が福祉サービスを利用する視点を学び、権利保障の観点から福祉サービスの利用過程の課題を確認し、権利保障のためのソーシャルワークの機能を理解しましょう。
16	社会福祉の論点 (第２章第３節)	社会福祉の論点と基本用語 キーワード：公私関係、普遍主義、選別主義、準市場、格差原理、正義論	社会福祉をめぐる論点を整理し、形式的に把握したうえで、社会福祉の公私関係から多元的供給主体について理解を深め、社会福祉の普遍主義と選別主義についてその意味を考えてみましょう。
17	社会福祉の原理 (序章)	社会福祉の原理とその問い キーワード：パラダイム、援助関係、社会福祉の対象	社会福祉の原理とは何か、原理がいかに問われてきたか、原理が問われることの理由と必要性について考えてみましょう。

18	社会福祉の思想・哲学 (第２章第１節)	社会福祉の思想・哲学への問い キーワード：イデオロギー、自由主義、フェミニズム	人間の尊厳と社会正義、平和主義にもとづく基本的考え方から、社会福祉の思想を創出した自由主義、その克服を図るフェミニズムについておさえてみましょう。
19	社会福祉理論の基本的な考え方 (第２章第２節)	戦後の社会福祉理論と社会福祉の定義 キーワード：パラダイム、目的概念、実体概念、社会事業論	戦後日本における社会福祉の定義、戦後の社会福祉理論の歴史的展開とその特徴について把握しましょう。
20	社会福祉の理論① (第２章第２節)	社会福祉の政策論と技術論 キーワード：社会事業、専門社会事業	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた政策論（孝橋正一）と技術論（竹内愛二）について理解しましょう。
21	社会福祉の理論② (第２章第２節)	社会福祉の固有論と統合論 キーワード：固有の視点、人格の確立	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた固有論（岡村重夫）と統合論（嶋田啓一郎）について理解しましょう。
22	社会福祉の理論③ (第２章第２節)	社会福祉の運動論と経営論 キーワード：三元構造論、生活権、ニーズ論、サービス供給（体制）論	戦後社会福祉理論のなかで、社会福祉の必要性を論じた運動論（真田是・一番ヶ瀬康子）と経営論（三浦文夫）について理解しましょう。
23	社会福祉の理論④ (第２章第２節)	海外の社会福祉・福祉政策に関する理論 キーワード：福祉の社会的分業論、福祉多元主義、福祉ミックス、NPM（新公共経営論）	海外の社会福祉および福祉政策の理論概要について福祉の分業論（ティトマス）、福祉多元主義（ウルフェンデン報告）、新公共経営論、準市場（ルグラン）等について理解しましょう。
24	社会福祉の対象とニーズ (第２章第４節)	社会福祉の対象把握とニーズ キーワード：近代化、脱工業社会、包摂と排除、ニーズ論	社会福祉の対象としてのニーズ（必要）の特徴、社会福祉の対象の史的変化、対象としてのニーズの捉え方と現代的課題について把握しましょう。
25	現代社会と社会問題の背景 (第３章第２節)	社会問題の構造的背景 キーワード：少子化、高齢化、複合喪失、情報化社会、就職氷河期世代、性別役割分業	社会問題が創出しているその社会構造と社会背景をふまえて、社会問題を理解するための多面的視点と社会問題の複合要因への理解、そこに社会福祉が係わる価値について理解しましょう。
26	福祉政策におけるニーズ (第５章第１節)	福祉政策におけるニーズとは何か キーワード：ニーズの５段階、有効需要、フェルトニーズ、主権、ベーシックインカム	社会福祉におけるニーズ概念を理解するために、福祉政策におけるニーズ（必要）とデマンド（需要）の差異について考えながら、そのうえで福祉政策におけるニーズの把握・種類について理解しましょう。
27	福祉政策における資源 (第５章第２節)	福祉政策における資源とは何か キーワード：絶対的貧困、５人の巨人、社会関係資本	福祉政策におけるニーズ（必要）を充足するための資源（リソース）の考え方、その資源の性質や資源の種類、その開発や配分について理解しましょう。
28	欧米の社会福祉の理論① (第10章第１節)	国際比較の視点と方法 キーワード：福祉レジーム論、脱商品化、21 世紀型福祉政策	福祉政策の 3 類型としての福祉レジーム論（自由主義レジーム・保守主義レジーム・社会民主主義レジーム）を理解し、＜20 世紀型福祉政策＞と＜21 世紀型福祉政策＞の特徴を把握しましょう。

29	欧米の社会福祉の理論② (第10章第4節)	福祉政策の潮流と課題 キーワード：所得保障、サービス保障	福祉政策の国際比較をするうえで新たな展開として＜所得保障＞から＜サービス保障＞へ重視される背景を理解し、＜サービス保障＞の国際比較の課題について考えてみましょう。
30	21 世紀社会と社会福祉 (終章)	21 世紀社会の社会福祉の必要性と方向性 キーワード：福祉の複合体、宗教的慈善、ボランティア、セツルメント、ソーシャルワーク機能	社会福祉の原型、社会福祉の歴史的展開、社会福祉の到達点、社会福祉の方向性について理論・歴史・政策の観点から再確認し、社会福祉の必要性について再確認・再学修しながら、把握してみましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
3 単位め	学修者自らが理解した社会福祉の概念（定義）について、時代背景を踏まえて生活保障の観点から福祉政策の戦後日本社会の展開のなかで説明してください。
4 単位め	現代社会における社会福祉の原理・理論・論点を踏まえて、自らの社会福祉観（対象観と対象者観）をまとめてみてください。

※ 提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※ 3・4 単位めは、1 単位につき 1,800 字以上でまとめるようにしてください。

■アドバイス

「社会福祉原論」は、長年にわたり社会福祉学の教育研究における必要不可欠な基礎科目です。しかし、「社会福祉士および介護福祉士法」の施行に伴い、大学教育の観点からの「社会福祉原論」の講義は困難になっていると思われます。むしろ社会福祉士等の資格取得を目指し、国家試験受験科目の一つとして履修されている方も多いと推察しております。

担当教員としては、「社会福祉原論」が、学問としての大学教育として、また国家試験受験科目〈社会福祉の原理と政策＝本学対応科目：社会福祉原論 A・B〉としても、双方に配慮したレポート学習およびスクーリングの授業内容としたいと考えております（そのため、できましたらスクーリングも、是非受講していただききたいと存じます）。以上の点を勘案し、以下のレポート課題を設定しました。

1単位めは、社会福祉の政策についての課題です。社会福祉にかかわる歴史的事象の《全般的な把握と肝要な細部》を目的としております。

2 単位めは、社会福祉の原理についての課題です。社会福祉にかかわる原理の《全般的な把握と肝要な細部》を目的としております。

3 単位めは、社会福祉のあゆみの全体像の整理を目的としております。1 単位めと 3 単位めのレポート学習を通して、学修者に社会福祉の政策に対する一定の心象（イメージ）が形成されればと思います。教科書を十分活用してまとめてください。レポート作成においては、教科書のみで対応できます。

4 単位めは、社会福祉理論および論点の全体像の整理を目的としております。2 単位めと 4 単位めのレポート学習を通して、学修者に社会福祉の原理に対する一定の心象（イメージ）が形成されればと思います。教科書を十分活用してまとめてください。レポート作成においては、教科書のみで対応できます。

【1 単位めおよび２単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【3 単位めアドバイス】

教科書「第 1 章社会福祉の歴史第 3 節日本の社会福祉の歴史的展開」および「第 7 章福祉政策の動向と課題」を参考に要約してまとめてください。社会福祉の概念を福祉政策との関連からの理解と、社会福祉の固有性の理解を目的とします。

【4 単位めアドバイス】

教科書「第２章社会福祉の思想・哲学・理論」「終章これからの社会福祉」を参考に要約してください。社会福祉の概念を原理・理論との関連からの理解と、社会福祉の固有性の理解を目的とします。

科目修了試験

■評価基準

教科書の内容理解に努めること。